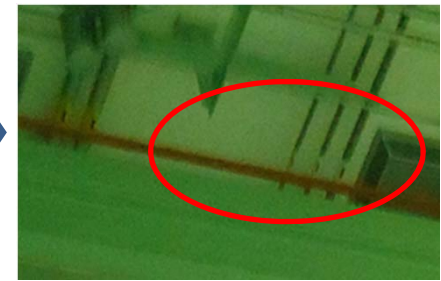


北九州PCB処理事業所トラブル事象一覧（令和2年8月～12月）

No.	発生日時	発生場所	概 要	対 応 状 況
1	8月31日 14時25分	2期・2階 低濃度分析室	低濃度分析室No3ドラフトチャンバー前の天井の一部が2m四方の範囲で落下。 No3ドラフトチャンバーでの作業はしていなかったが直ちに低濃度分析室の入室を禁止。 ドラフトチャンバー内の負圧は正常範囲であることを確認。	天井内の排気ダクトに結露が見られ落下した天井板も膨潤していたことから、結露が原因によるものと判明。 応急措置として、天井の開放部に防水シートを張り、すき間を養生テープで塞ぐとともに、周辺の天井板にビスを打ち込んだ後に、天井内の排気ダクトの仮保温工事と作業場所上部のビス止め補強工事を施工。 恒久対策として、天井裏ダクトの断熱工事を施工するとともに、天井内部の点検による経過観察を実施。
	9月3日 9時30分	1期・1階 破碎室	始業前点検で破碎室の天井の一部に約50cm角の剝離を発見。 直ちに当該箇所付近の立入を禁止。 破碎室内の負圧は正常範囲であることを確認。	給気ダクト吹き出し口付近に結露跡があったことから、室温と給気温度の温度差による結露が原因によるものと判明。 応急措置として、天井吹き出し口の下部にセーフティネット等の仮設工事を施工。 恒久対策として、既存の天井材の下側に、新たな天井材(ケイカル板)をネジに加えワッシャで固定する補強工事を施工するとともに、天井内部の点検による経過観察を実施。
	・同様の事案が続いたことから、施設全体の緊急的な点検を実施。緊急対応が必要な箇所は無かったが、安全サイドに立って天井材等の更新工事を計画。			



2期低濃度分析室の天井板落下状況(左)と補修後の状況

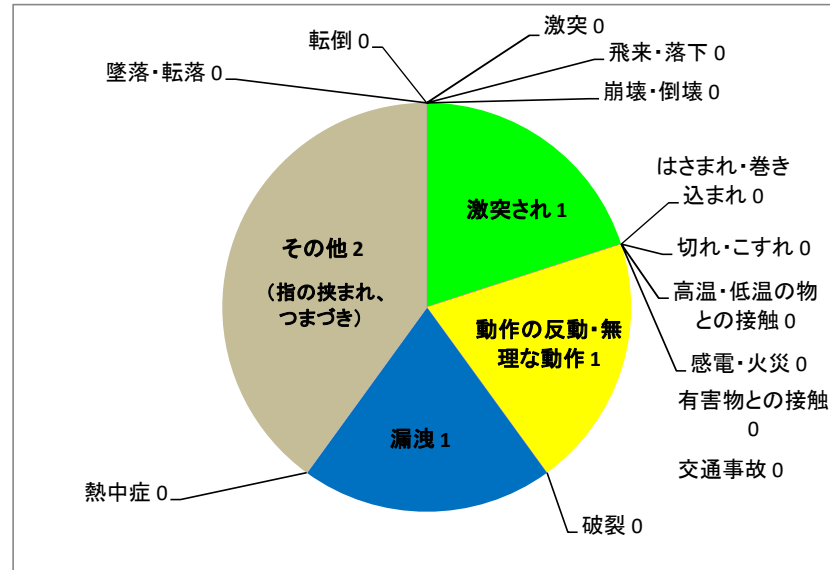


1期破碎室の天井板剥離状況(左)と補修後の状況(右)

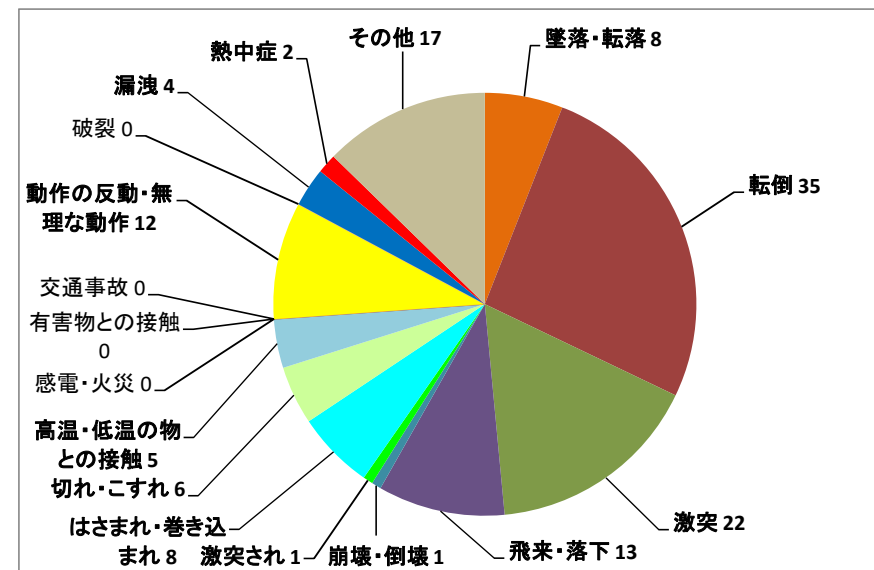
ヒヤリハット件数（令和2年1月 ～ 12月）

年	R 2 年												小計
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
実体験	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
仮想	13	12	11	10	12	10	19	16	12	12	9	11	147

”実体験”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。



実体験ヒヤリハット



仮想ヒヤリハット